つくしんぼ保育園・ととろ保育園［延岡市］

わいわいワンパーク出展
日時：平成 30 年 5 月 20 日（日）9:30 ～ 13:00
場所：延岡総合文化センター　　主催：延岡市保育協議会

提供していただいた端材

端材を利用し入口を装飾

会場で遊ぶ子ども

子育ての楽しさや育児への理解を深めるために、延岡市の認可保育園、認定こども園、児童館、おやこの森が共同で開催している『わいわいワンパーク』。そこで両園では端材を使った積み木遊びコーナーを設置しました。材料は、昨年度開催した「製材所を巡ってモッタイナイを探すツアー」で訪ね、その後交流を続けている（有）一山木材と（有）マルウッドから提供していただいたものです。保育士と園児でペーパーで磨き、ささくれ等がないように仕上げ設置しました。また、来場者に木製品、木材に対する意識調査のアンケートを実施し、アンケート結果から、デザイン性が高く気に入るものがあれば木製品をしたい、木製玩具がある公共施設があれば利用したいという市民の意識を伺うことが出来ました。

第 2 回木育ネットワーク部会講演会

日　時：平成 30 年 3 月 10 日（土）14:00 ～ 16:30
場　所：みやざきアートセンター 3 階創作アトリエ　　参加数：18 名
講　師：佐藤 圭氏（北海道水産林務部森林環境局森林活用課）
　　鈴木　正樹氏（㈱ハルキ取締役）、源 真紀氏（(有) スタジオ嶋 代表）

全国で初めて「木育」の取り組みが行われた北海道から、3 名の講師を迎え北海道での取り組みについて伺いました。また、木の素材と花を組み合わせたワークショップも行いました。

➤ 北海道の木育

講師：佐藤 圭氏
（北海道水産林務部
森林環境局森林活用課）

木育を道民運動として推進するためには、行政だけではなく民間の取り組みと一体となって進めることが必要であることから、平成 21 年から民間の部分について木育を普及する専門家を育成する「木育マイスター育成事業」を開始しました。現在 224 名の方が認定されています。
木育マイスターは、木育が道民運動として定着するよう、木育活動の企画立案や指導、アドバイス、コーディネートを行っています。北海道の木育の特徴として、まず、森（みどり）と木材（ちゃいろ）の 2 つを意識して行っています。また、人づくりや社会づくりを目指した情操教育として行っており、行政と民間の両輪でその取り組みを推進しています。木育をつながりのキーワードとして、多くの方が参加し、森林づくりや地域の木材、それを支える産業への理解を促進する取り組みとして行っております。

➤ 木育マイスターの取り組み

講師：鈴木 正樹氏
（㈱ハルキ取締役）

私は、木育マイスターの第 1 期生です。本業はプレカット加工販売や製材業、建築資材を販売している会社ですが、木育にも力をいれており、幼稚園児や小学生を対象とした植樹や工場見学などを行っています。また、地元の小学生 6 年生全員を対象に「天板交換プロジェクト～森から机～」を実施しています。これは、教室の机の天板を道南スギで製作したものを寄贈し、参観日に、材料について、森林の役割や現状について説明を行った後、児童、保護者、先生方、弊社社員が協力し、古い天板を道南スギの天板に交換する、という事業です。その後も、メンテナンスとして、ひたすら天板を磨くというワークショップも行っています。その他、休日は木育マイスターとしても活動していますが、課題なのが木育マイスターの不足です。現在道南で活動しているのが 20 名弱と少なく、運営費やマンパワーが行政からも必要です。

講師：源 真紀氏
（(有) スタジオ嶋 代表）

➤ 花材とかんなくずを使ったワークショップ

鈴木さんと同じく、木育マイスター 1 期生である源さんは、本業のフラワーアレンジメントとかんなくずを融合させたワークショップを行うことで木材の良さを花を通じて伝えています。幅広い視野で木育を捉え、間口の広い木育を目指しています。当日は、北海道の花材とかんなくずを使ったアレンジメントを行いました。

● 参加者アンケートより ●

▶本日の勉強会についてご意見があれば自由にご記入ください
・行政との関係がよくわかりました。　　・行政と民間の連携により木材が継続していくことを学んだ。
▶今後の木育ネットワーク部会の活動についてご意見があればご自由にご記入ください
・連携が大切だと思いました。
・活動報告などの実践交流会が欲しいです。連携してできることで活動を広げていけるといいなと思っています。

先生が活けたお花

木育ネットワーク部会とは

豊かな森林を次世代に引き継いでいくには、県民一人ひとりが、木材の良さや利用することの意義について理解と認識を深め、県民全体で県産材の地産地消に取り組むことが重要であることから、みやざき木づかい県民会議を平成 25 年 2 月に設置し、木づかい運動を進めてきました。
木づかい運動を進めるうえでは、子どもたちを中心に木に触れ親しむ機会や、森林、林業、木材、資源循環について分かりやすく伝える機会を創出する木育活動を進めることが非常に大切であることから、木育に積極的に取り組む企業・団体・行政などの参画による木育ネットワーク部会を設置いたしました。

お問い合わせ
みやざき木づかい県民会議　木育ネットワーク部会　事務局
宮崎県森林林業協会・宮崎県山村・木材振興課みやざきスギ活用推進室
〒880-0802　宮崎市別府町 3 番 1 号　宮崎日赤会館 2F　　TEL：0985（27）7682 / FAX：0985（25）2398
※木育かわら版の発行には「森林環境税」が活用されています。

木に触れて、
木と遊び、
木を学ぶ

みやざき木づかい県民会議　木育かわら版　Vol. 7　2018 年 8 月 27 日発行　発行人：宮崎県森林林業協会　編集：みやざき文化村

木育かわら版

MOKUIKU

知ろう、使おう、広げよう、みやざきの木

Vol. 7

木に触れて、
木と遊び、
木を学ぶ

Contents

Page1	木育講演会＆木育カフェ
Page2	木育サポーター養成講座、木育サポーターワークショップ
Page3	森のかけらのプロジェクト、高千穂高校生 現地見学会
Page4	つくしんぼ保育園・ととろ保育園の取組み 第 2 回木育ネットワーク部会講演会

平成 30 年度　木づかい県民会議木育ネットワーク部会勉強会

木育講演会＆木育カフェ

日　時：平成 30 年 6 月 23 日(土) 10:00 ～ 16:00
場　所：みやざきアートセンター　3 階創作アトリエ
講　師：松井 勅尚氏（岐阜県立森林文化アカデミー教授）
参加者：35 名（事務局含む）

松井 勅尚（まつい ときなり）
岐阜県立森林文化アカデミー教授。木育実践研究者。一陽会彫刻部委員。「文化と子どもを真ん中に置いたまちづくり」を目指し、「MOTTAINAI 工房」「木育カフェ」を考案しスタート。「ぎふ木育 30 年ビジョン」策定に関わり、現在「第 3 期ぎふ木育指導員養成講座（全 7 回）」監修。地域に根ざした独自の木育プログラム開発 多数。全国の幼保、大学などの木育研修など を支援。「幼児の心とからだを育むはじめての木育」編著（黎明書房）

「いちおしの木のもの」を持参するように言われていた当日。参加者はそれぞれの“いちおしの木のもの”を持って交流しました。それぞれ熱い自己紹介となっていたようです。その後は、木育活動を取り入れた保育園においての子どもの変化など具体的にお話いただきました。午後からは「木育カフェ」と題し、木のボタンを作りながら、先生からのテーマをグループで話し合うというスタイルで意見交換会が行われました。それぞれにとっての「木育」を考える、また、何を目指すのか、問題は何なのかを考える機会になったのでは、と感じた 1 日でした。

みやざき木育 Mokuiku

日本人の考え方は日本の自然に育まれてきました。日本の自然には四季があり、四季の移ろいの美しさが八百万（やおよろず）の神を生み出しました。仏教にも“山川草木悉皆成仏”（さんせんそうもくしっかいじょうぶつ）という言葉がありますが、草木や国土にも仏性があるというように、自然に対する畏敬の念を抱いてきました。しかし、今の日本をみた時にどうでしょうか。日本の森林率は 67％と世界第 3 位であり人工林率は 41％。しかし、木材の自給率は 34％。これは使うために植えた木（人工林）を最後まで看取っていない、ということでもあります。木を生き物と意識できていない日本で、生きる力を育むことが出来るでしょうか。実際、日本では年間 30,000 人の人が自ら命を絶っています。これが 1 4 年間も続いたのです。また、小学生の 9 割がいじめの経験があります。国連の発表によると、日本人の 91.3%の人々が都市部に住んでいるそうです。森に住んでいない人々がほとんどなのです。森と人の命を大切にできない日本。木育とは、根幹はこのような背景から産まれた言葉だと考えます。木育は子どもだけでなく、子どもをはじめとする全ての人々にとって大切なことなのです。

木でつくること・0～5 歳の重要性

乳幼児までは、人生の中で一番模倣力がある時期だそうです。この時期にこそ「大人の願い」を伝えるべきだと思いませんか？私は、木でつくることを通して、自然（木）は人の思い通りにならないことを学び、新たな視点（多様な視点）を獲得することができました。木でつくることは楽しい以外に多くの可能性があるのです。岐阜県の保育園では、年中児に対して箸づくりに取り組んでいますが、1 か月かけて作ったあとは、箸をかまなくなった、落とさなくなった、お片付けも丁寧になった、食べる時間を大切に過ごすようになったなど変化が見られました。傷んだら自分で直すという、手間暇掛けて暮らしてきたことを「みやざき木育」でも大人の願いとして伝えていきませんか？

➤ 木育カフェ

5つのグループに分かれ、各グループのリーダー(店長)以外は、場所を移動しながら、3 つのテーマについて話し合いました。話し合いはヒノキのボタンを磨きながら行い、最後は各グループの代表が感じたことなどを発表しました。手を動かしながらの作業は、場が持ち緊張を和らげる作用もあったようで、普段だったら話せないようなことも話し合える空間になったようです。そのような空間での交流は前向きな気持ちにもなったようでした。

お互いに自己紹介

園の子どもが作ったお椀を持参した参加者

先生からの質問プリント
「あなたの好きな木は？なぜ？」「10 年度どんな日本（宮崎）になってほしいですか？」

先生からの質問プリント
「宮崎県の木は？」「身近にある木は何の木？」「木の絵を描いてください」

平成 30 年度　木づかい県民会議木育ネットワーク部会

木育サポーター養成講座

日　時：平成 30 年 6 月 24 日(日) 10:30 ～ 16:30
場　所：みやざきアートセンター　3 階創作アトリエ
講　師：長谷川 彰氏（岐阜県木育推進協議会副理事）
参加者：24 名（事務局含む）

長谷川 彰（はせがわ あきら）
岐阜県生まれ。定年退職後、岐阜県立森林文化アカデミーにて木育と木工を学ぶ。現在、林業家・おもちゃ作家・ぎふグッド・トイ・講座講師が参加する岐阜県木育推進協議会の副理事長として活動。その他地区自治連合会長や可児市自治連絡協議会副会長を始め、「市都市計画審議会」など 8 審議会・委員会の委員を務めている。

昨年に引き続き、木育先進県である岐阜県より長谷川様をお招きし、木育サポーターとしての心構えや技術の伝え方、また、プログラムの作成方法などを学びました。

木育概論

大人として、子どもをどう育てる

国によって、大人として子どもに対し大切にしていることは違いますが日本では「つながり」が大切にされてきました。この「つながり」ですが、日本の風土から育まれたものです。日本は縦に長い国で北の北海道では流氷が見られ、南の沖縄ではサンゴ礁が見られるという自然が豊かで季節がある国です。季節がある、ということは自然が厳しいということでもあります。そんな中で日本人は自然と共に過ごしてきました。今こそ、日本の現状や暮らしの良さを再認識して、大人として大切にしたい「つながり」を再認識し、子どもに何を選び、何を与えるのかを考える時だと考えています。

伝えたい木の魅力

日本人が「食」に目が向かなくなり、栄養バランスが偏り肥満や無気力、協調性の欠如など問題が大きくなり「食育」という言葉が生まれました。高度成長とともに、暮らしも便利になり手を動かすことやモノをつくること、体験などが減りました。「暮らし」に目が向かなくなり「食育」という言葉が生まれました。

今、「自然･人･モノのつながり」を大切にする子どもを育てることが、未来の日本の暮らしを支えることになると感じています。

こどもに何を選び、何を与えるか～「バランス」～

子どもが成長し自立するうえで、実現や成功などのプラス体験はもとより、葛藤や挫折などのマイナス体験も含め多様な体験を経験することが不可欠です。子どもが成長していくための大切な原体験を考えましょう。子どもにとって一番心地よく感じる素材は「人肌」であり、その次が「木」と言われています。ただ、「木のものを与えればいい」「木でつくればいい」ということではなく、子どもが感じた「こと」を「一緒に共感」する大人の存在が重要です。心地よさを感じることができ、工夫ができる、また子ども自らが遊びを見つけ、工夫したことに大人が共感できる環境が子どもの成長に必要な体験となります。

「木育」と生きること

人間はたくさんの命をいただきながらしか生きていけません。「自然に生かされています。たくさんの人に支えらえている「感謝の心」が育たないと木育は成り立ちません。感謝の心を育てれば豊かな日本の自然、木の文化を次世代に手渡せます。生（命）や身近にあるコト、モノ、コトを活かした生活を行うことで、生きる力を養うことが大切です。

➤ 実習

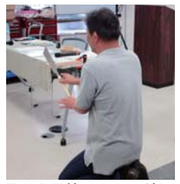
箸の文化の説明を聞いた後、差し金の使い方を木育サポーターの田端さんが指導し、角材に線を引いた後のこぎりで切り、紙やすりを巻く道具にしました。それを使用し箸づくりを行いました。

箸づくりを行った後は、班になり箸づくりを行うワークショップのプログラムを作成しました。

すべて終了した後、木育サポーターの認定証が手渡されました。

講座

田端さんによる差し金の使い方の説明


子ども目線でののこぎりの使い方

差し金の使い方の実習

のこぎり挽きの実習

箸づくり（磨き）

木育サポーター認定証授与

木育サポーターワークショップ

日　時：平成 30 年 6 月 30 日（土）10:00 ～ 16:00
場　所：みやざきアートセンター　3 階創作アトリエ
参加者：32 名

木育サポーター初心者を対象に、木育のワークショップ（写真立て作り、動くおもちゃ作り、カスタネット作り、スプーン＆フォーク作り、かんなくずでボンボン作り）を行いました。木育サポーターが講師になり、宮崎工業高校の生徒が補助に入り、参加者に指導しました。作りながらも、交流が盛んに行われていました。当日は、カスタネットとスプーン＆フォークのキットを製作している向陽園の方も見え、キットが購入できることを参加者に伝えました。

● 参加者の感想より ●　<一部省略あり>

- かんなくずのくす玉やボンボン、花作りは創造性を発揮できるのでよい題材でした。体験したならではの学びがありました。
- 様々なワークショップが体験でき、自分のペースで進められた。
- 交流しながら色々なモノ作りを楽しめた。

森のかけらのプロジェクト

日時：平成 30 年 5 月 10 日（木）、6 月 26 日（火）、7 月 26 日（木）
場所：天岩戸保育園（高千穂町）、日之影保育園（日之影町）、鞍岡保育園（五ヶ瀬町）
協力：西臼杵支庁林務課

西臼杵支庁林務課では関係者と連携して木育活動に取り組んでいます。木のかけらを願いを込めてやすりで削り「お守り」にする“森のかけらのお守りづくり”。日之影町の間伐材であるヒノキを材料として西臼杵郡の 3 つの保育園で実施しました。

天岩戸保育園

日之影保育園

鞍岡保育園

天岩戸保育園

園児 14 名（年長、年中）へ、布製絵本『あやちゃんと大きな木のおはなし』の読み聞かせを行い、教室内にある“木でできているものさがし”で遊んだあと、“森のかけらのお守りづくり”に取り組みました。将来の夢や頑張りたいことを思い作業しました。完成まで 1 時間かけて全員仕上げることができました。

日之影保育園

園児 15 名（年長）へ、布製絵本『あやちゃんと大きな木のおはなし』の読み聞かせを行い、“丸太と葉っぱの当てっこゲーム”をした後にお守りづくりに取り組みました。全員年長だったので 1 年生になったら頑張ることを思いながら磨いてもらいました。完成後は1年生になった時の目標も発表してもらいました。

鞍岡保育園

園児 6 名（年長、年中）へ、読み聞かせとゲームを行った後、大きくなったら何になりたいかを思いながら磨いてもらいました。地域の方も参加し一緒に作業を行いました。

葉を触ったり、匂いをかいだり・・・

山が身近にあっても木や葉っぱに初めて触れる子もいました。磨く作業は 1 時間にも及びましたが集中して取り組むことができ、園児にとって良い経験になったと感じられました。引き続き、西臼杵支庁林務課では、木育活動に取り組んでいきます！

高千穂高校生 現場見学会

日　　時：平成 30 年 5 月 22 日（火）13:00 ～ 16:30
場　　所：西臼杵郡高千穂町
参加者生徒数：1 年生 107 名（普通科・経営情報科・生産流通科）

西臼杵地区では、地元の高校生を対象に林業という職業があること、また、楽な仕事ではないがやりがいのある仕事であることを知ってもらう機会として、1 年生と 2 年生とプログラムを組み取り組んでいます。今回、高千穂高校を対象に行った取り組みをご紹介します。

伐採現場

場所：高千穂町大字五ケ所
　　JA 高千穂所有林
説明：西臼杵森林組合
　　甲斐 崇志氏

伐倒➡集材（スイングヤーダ）➡造材（プロセッサ）➡積み込み（グラップル）の一連作業を見学

造林現場

場所：高千穂町大字五ケ所字
　　菅野尾（町有林）
説明：西臼杵森林組合
　　佐藤 健誠氏、飯干 耕大氏

西臼杵森林組合の職員が苗木の説明を行い、その後にコンテナ苗と路地苗を各パスの生徒代表 5 人が植栽した。

トークセッション

場所：高千穂町大字五ケ所旧五ケ所小学校
説明：「YAMASHI」メンバー
　　抜屋林業　抜屋　匠氏、
（有）福森産業　髙山 豊仁氏、
西臼杵森林組合　甲斐 崇志氏
ほか

林業体験学習のトークセッションでは、高校生からの質問に対し、「YAMASHI」メンバーから林業の楽しいことや、つらいことなどを話していただき、高校生達が抱いていた林業のマイナスのイメージを大きくプラスへと変える機会となった。